

第4回防府市農福連携検討会議 会議録（要旨）

■開催日時・場所

令和4年7月26日(火) 午後3時30分から午後4時まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

1 議事

(1) 農福連携防府モデルの体制について

- ①アンケート結果
- ②モデルイメージ

2 その他

(1) 次回会議の協議事項

- ・令和5年度スタートに向けて

(2) 次回会議の開催日

■出席者名簿（敬称略）

【区 分】	【所属団体名】	【氏 名】
会 長	防府市愛光園	伊南 孝之
副会長	デイサービスセンター 新田の楽さん家	森 泰樹
委 員	心促福祉作業センター	能野 伸治
委 員	夢かれん	津田 隆志
委 員	デイサービスセンター おおひらの里	河田 珠美
委 員	切畑ファーム	原田 道昭
委 員	山口県農業協同組合防府とくち総括本部	久門 浩之

■会議録

議事 （防府市農福連携検討会議設置要綱第6条により会長が進行）

防府市審議会等の設置及び運営に関する要綱第6条の規定により本検討会議を公開し、要約した会議録を公表する。

議事 1 農福連携防府モデルの体制について

【事務局説明】

①農福連携防府モデルアンケート結果について、資料1-1及び資料1-2をもとに説明。
資料1-1は障害・介護事業所、資料1-2は農業者からの回答結果をまとめたもの。

アンケート結果から、農福連携に対して利用希望や期待をしている事業所や農業者が一定数いることがわかった。また、農作業の中には、事業所で受託可能な作業と農業者が委託可能な作業で一致するものがあり、マッチングの可能性はあると思われる。

一方で、料金、納期、作業内容等の条件が合えば利用したいとの回答や、農作業経験のある職員や施設利用者が少ない、怪我防止等の安全性の確保はどうするか等の意見もあり、実施にあたってはそれらの課題や不安を解消する必要がある。

——— 意見・質疑・応答 ———

(G委員)

アンケート結果を見て、障害と介護の事業所では、取り組める範囲に違いがあると感じた。事務局からの説明にもあったとおり、事業所が既に取り組んでいる作業と農業者が求めている作業とのマッチングについては、可能性を感じた。ただ、作業の価格帯やスケジュールなどが、双方に見える形にならないとイメージが湧きにくいという印象を受けた。

(A委員)

アンケート結果から、介護の事業所でできることは、やはり少ないと感じたが、ラベル貼りなど利用者が取り組みやすい作業、また、量は少なくとも参加できる作業など、何か力になれたらと考えている。

(D委員)

農業者のアンケート回収率が低く、まだ農福連携に対する意識が薄いのかなと感じた。ただ、農福連携の利用希望は、「利用したい」と「条件が合えば利用したい」を合わせると4分の3以上になり、やはり農業は労働力が不足している。全ての農作業が連携できるとは思わないが、内容によってはかなり有効なものもあると感じた。

【事務局説明】

②農福連携防府モデルイメージについて、資料2-1及び資料2-2をもとに説明。前回会議で示した農福連携防府モデルイメージを一部見直し、資料2-1のとおりとした。主な変更箇所としては、農福連携に取りかかりたい農業者からの相談窓口は「JA」とし、事業所からの相談窓口は「防府市施設連絡協議会(事務局:防府市社会福祉事業団)」とした。また、農福連携に関わる市の関係部署に、県立農業大学校との連携を行っている「農林業の地と技の拠点連携推進室」を新たに追加した。

農福連携の形態については、資料2-2のとおり、3つのパターンを想定している。

「Ⅰ. 障害者就労支援事業所の農福連携」は、①農業者が種まきや草刈り等の農作業を障害者就労支援事業所に委託、②障害者はその作業を行う、③農業者が委託料を障害者就労支援事業所に支払い、④就労支援事業所は利用者に工賃を支払うという流れ。

「Ⅱ. 遊休農地等を活用した農福連携」は、①農業者が遊休農地を障害・介護事業所に提供、②障害者や高齢者が遊休農地を活用し、野菜等を栽培、③収穫物をJAのとれたて満菜等で販売、または事業所の食材として自己消費、④収穫物の販売収益から利用者に工賃を支給、農業者に農地賃借料を支払うという流れ。

また、元気な高齢者が『通いの場』として近くの農家に行って作業し、収穫物を家庭の食材として消費するということも想定。

「Ⅲ. 農業指導者の派遣による農福連携」は、①障害・介護事業所等からの依頼に基づき農業指導者を派遣、②農業に取り組むための環境整備や技術指導を行う、③派遣料を支払うという流れ。

この3つの形態による農福連携について、JAに仲介、調整していただきたい。

——— 意見・質疑・応答 ———

(F 委員)

農福連携防府モデルのマッチングについて、農業者からの作業依頼があった場合、防府市施設連絡協議会に繋ぐということでしょうか。

【事務局】

マッチングはJAが行うこととし、施設連絡協議会は、農福連携を始めたい、取り掛かりたいという事業所の相談支援先として考えている。

(F 委員)

農作業の依頼の受付や情報提供の仕組みについて、何か想定しているか。

【事務局】

前回会議で他県の取り組みとして紹介したが、ホームページに各事業所が受託可能な農作業の一覧を掲載することで情報発信ができないかと考えている。

(F 委員)

情報発信については、JAのホームページ等で行える。

農業指導者については、農繁期等で対応が難しい場合もあるが、日程調整をしてJAの指導員等を派遣できればと考える。

(B 委員)

事業所は、農福連携に取り組みたいかどうかを施設連絡協議会に情報提供するのか。

農業者からの作業依頼があれば、その情報を協議会からJAに提供するのか。

【事務局】

施設連絡協議会はあくまでも相談窓口と捉えている。

(B 委員)

農作業の依頼があれば、JAが直接事業所に情報提供するということか。

その中で希望する事業所があれば、J Aが間に入って調整するのか。

【事務局】

仲介はJ Aが行うが、委託条件の取り決め等のやり取りは、事業所と農業者で直接行っていただくことを想定している。

(B 委員)

市の支援に補助金交付とあるが、具体的にどういったところへの補助なのか。

【事務局】

前回会議ではコーディネーターの配置に対する補助金を想定していると説明したが、それ以外、実際に必要なところに対して支援したいので、今後、御意見を伺っていきたい。

(E 委員)

防府市施設連絡協議会の役割について、今一度説明してほしい。

【事務局】

施設連絡協議会には障害だけでなく、介護の事業所も加入しており、事業所同士の情報交換等が行われている。協議会に加入していない事業所もあるが、そういった事業所からの農福連携に関する相談支援にも対応する体制にしたいと考えている。

議事 2 その他について

(1) 次回の協議事項、(2) 次回の開催日について

【事務局説明】

次回会議では、令和5年度からの農福連携防府モデルの開始に向けて、本日の会議の意見をもとに、より具体的な案を示し、協議いただきたいと考えている。

開催日については、後日日程調整を行うので協力をお願いします。

閉会
